

安全啓発リーフレット(令和2年度版)

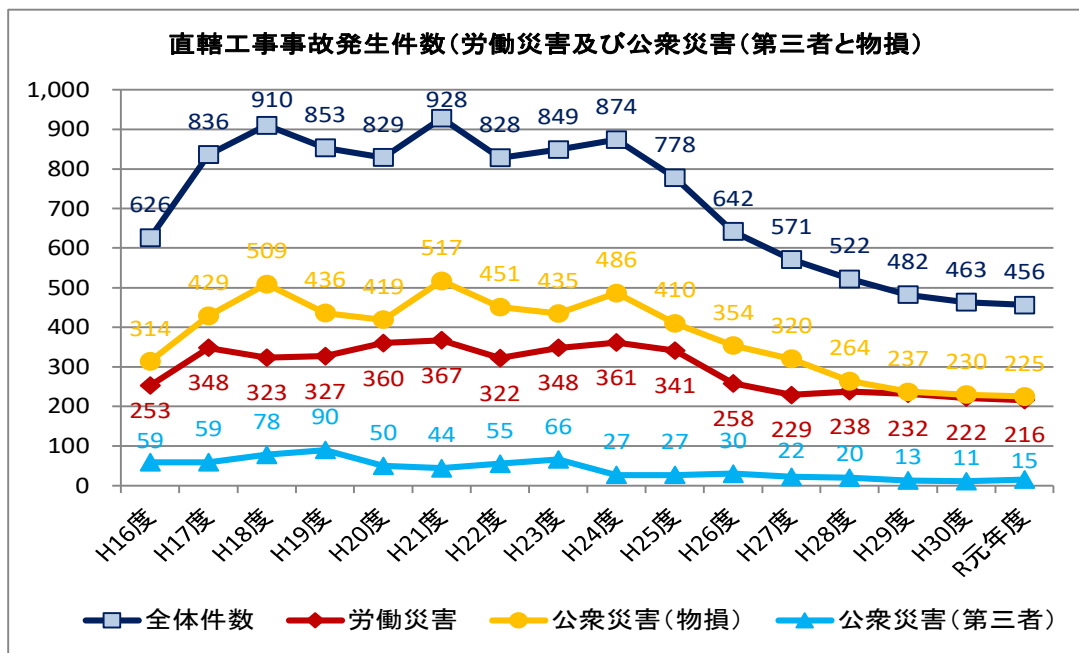
令和元年度の事故発生状況

目 次

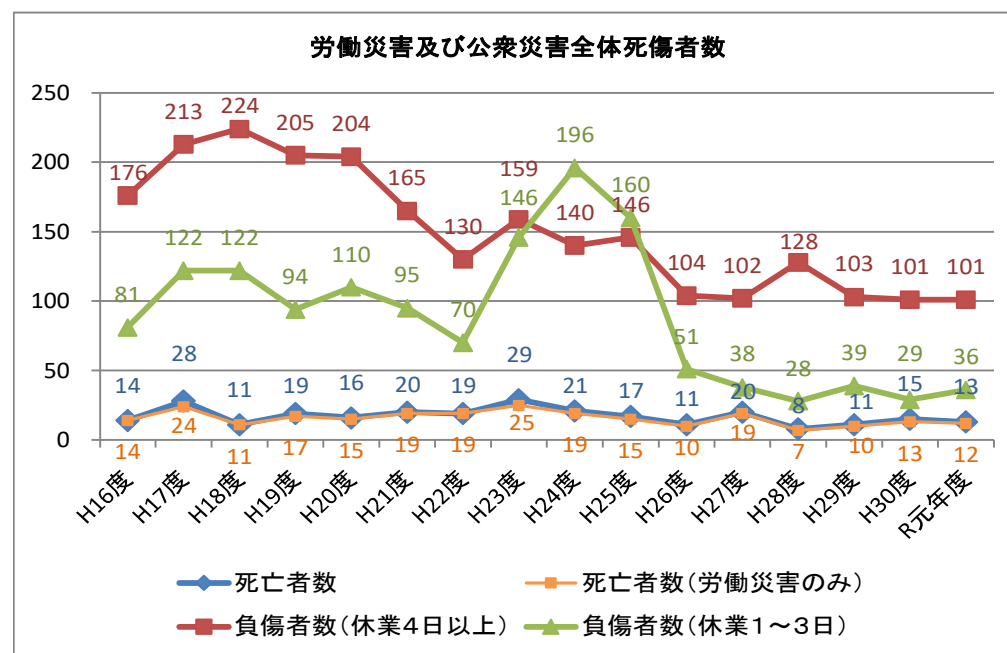
| | |
|----------------------------------|----|
| ・ 直轄工事における事故発生状況①（平成16年度～令和元年度） | 2 |
| ・ 直轄工事における事故発生状況②（平成21年度～令和元年度） | 3 |
| ・ 直轄工事における事故発生状況③（令和元年次） | 4 |
| ・ 事例1 建設機械の転倒、下敷、接触、衝突・労働災害 | 5 |
| ・ 事例2 土砂崩壊事故・労働災害 | 6 |
| ・ 事例3 墜落事故・労働災害 | 7 |
| ・ 事例4 建設機械の転倒、下敷、接触、衝突・労働災害・労働災害 | 8 |
| ・ 事例5 災害熱中症・労働災害 | 9 |
| ・ 事例6 飛来、落下・労働災害 | 10 |

直轄工事における事故発生状況①（平成16年度～令和元年度）

工事事務発生件数(労働災害及び公衆災害) 平成16年度～令和元年度



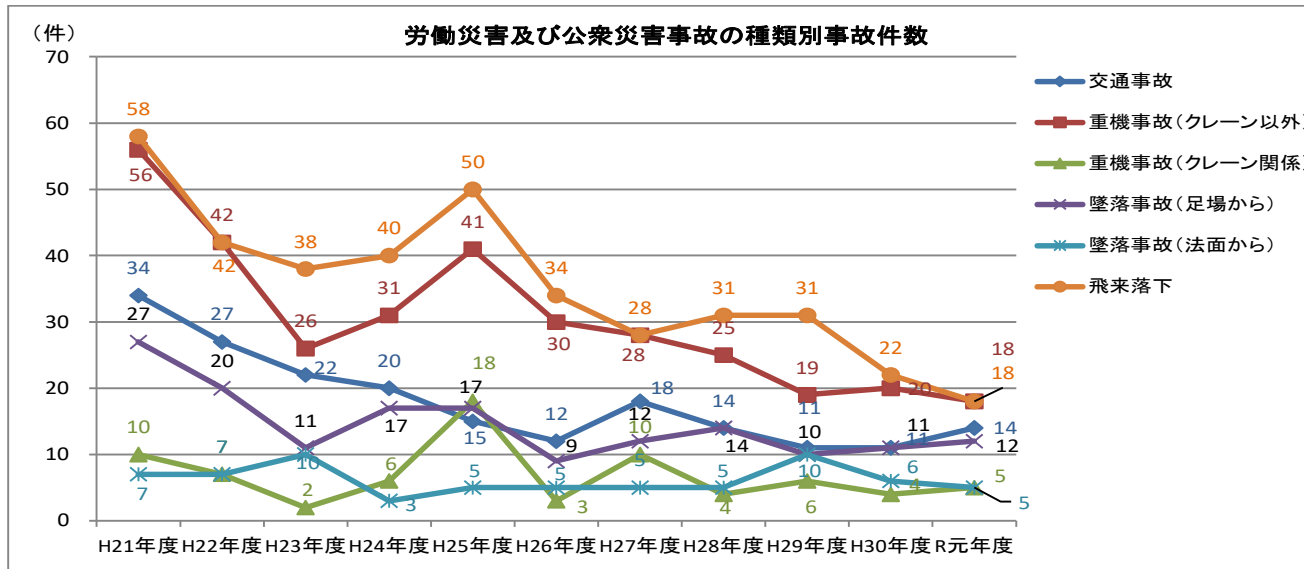
死傷者数(労働災害及び公衆災害) 平成16年度～令和元年度



- **令和元年度の労働災害及び公衆災害による事故発生件数は456件であり、数年間連続で減少傾向**にある。
- 令和元年度の労働災害の事故発生件数は216件であり、減少傾向にある。
- 令和元年度の公衆災害(物損)の事故発生件数は225件であり、減少傾向にある。
- 令和元年度の**労働災害及び公衆災害による死亡者数は13人**で昨年度から減少し、**負傷者数(休業4日以上)は101人**で昨年度と同じ、**負傷者数(休業1~3日)は36人**であり昨年度から増加傾している。

直轄工事における事故発生状況②（平成21年度～令和元年度）

事故発生件数 平成21年度～令和元年度

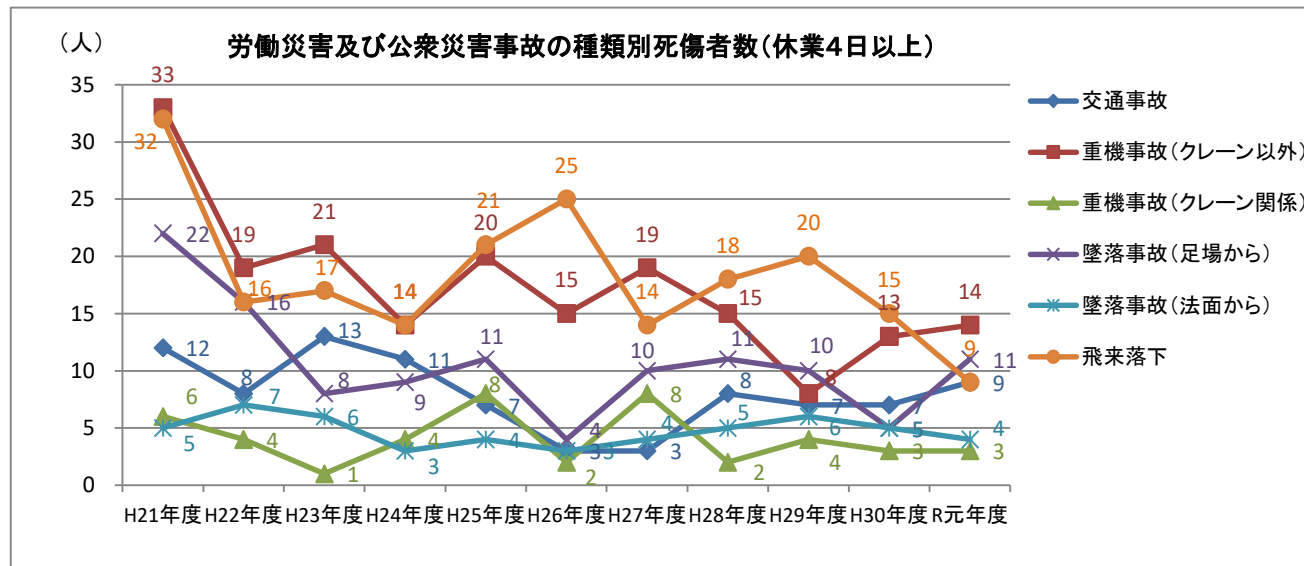


[事故発生件数及び死傷者数の内訳]

【事故発生件数】

- 令和元年度は、**飛来落下が前年度と連続で減少した。**
- 重機事故では、重機事故(クレーン以外)が前年度に比べ2件減少し、重機事故(クレーン関係)は1件増加した。
- 墜落事故では、前年度に比べ墜落事故(足場から)が1件増加し、墜落事故(法面から)が1件減少した。

死傷者数(休業4日以上) 平成21年度～令和元年度

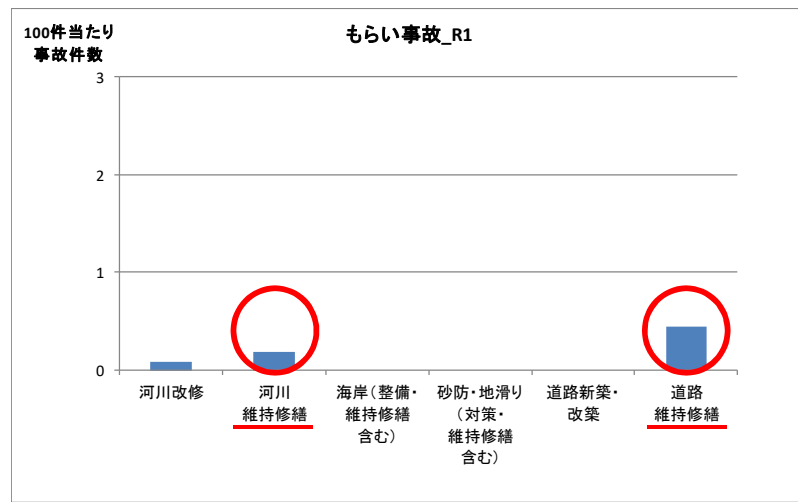
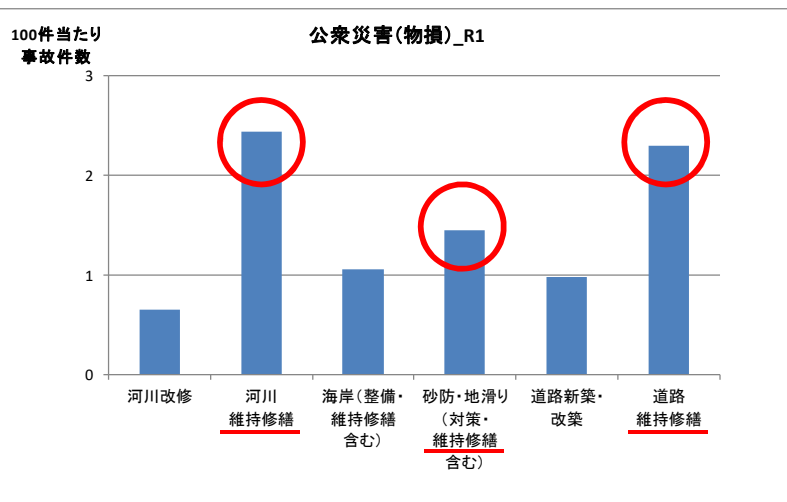
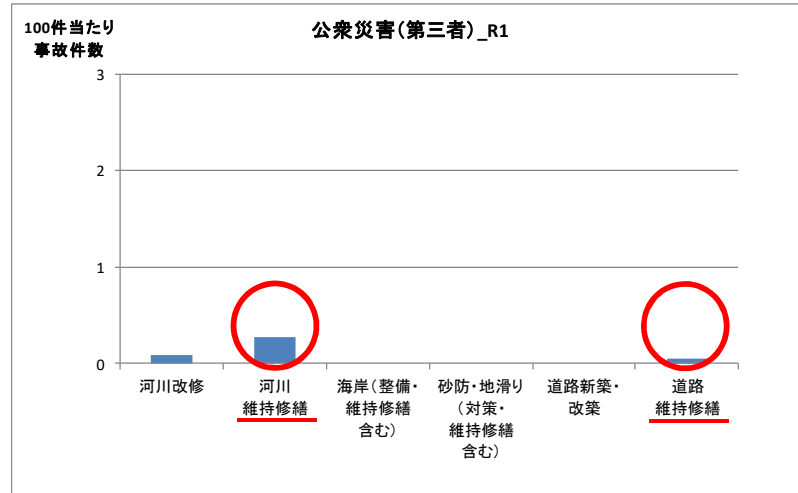
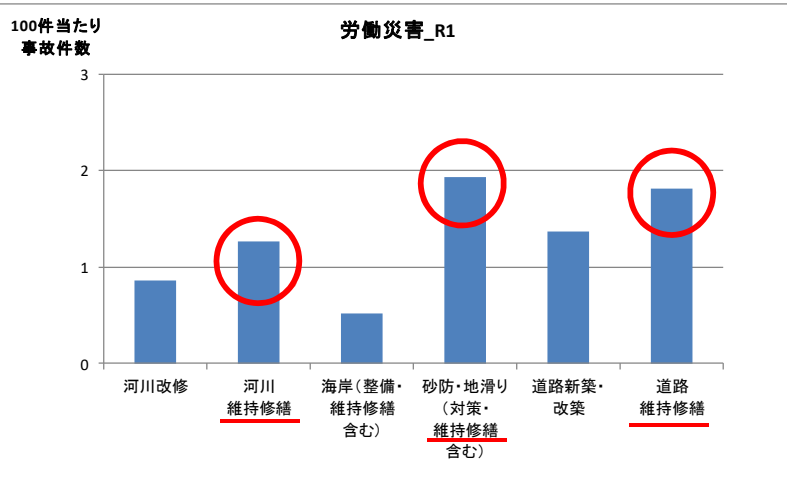


【死傷者数(休業4日以上)】

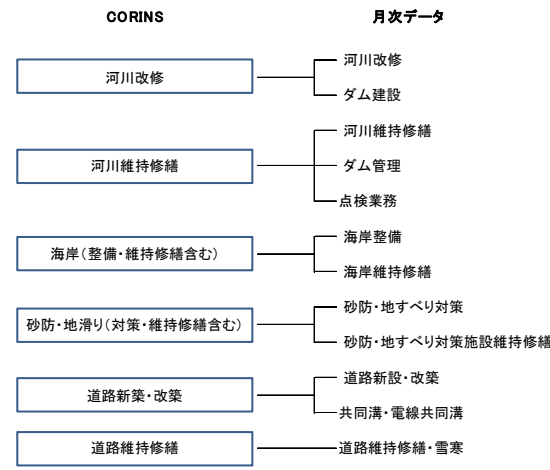
- 重機事故(クレーン以外)と墜落事故(足場から)は、前年度に比べ件数が増加し、休業4日以上の占める割合が高くなった。それ以外の種類別は、事故発生件数と同じような傾向を示している。

令和元年次(平成31年1月～令和1年12月)における事故発生率の特徴

- 労働災害の発生率は、砂防・地滑り(対策・維持修繕含む)が最も多く、次いで道路(維持修繕)と河川(維持修繕)が多いことから、維持修繕工事は災害発生率が高い傾向にある。
- 公衆災害(物損災害)は、河川維持修繕と道路維持修繕において発生率が高い。
- もらい事故は、現道での作業が前提となる道路維持修繕が最も高い発生率となっている。



100件当たり事故件数は、CORINSデータより工事件数を求め、下図の対応関係に基づいて算出した。



草刈り機から振り落とされ下敷きになり被災（負傷事故：休業4日以上）

事例1 建設機械の転倒、下敷、接触、衝突・労働災害

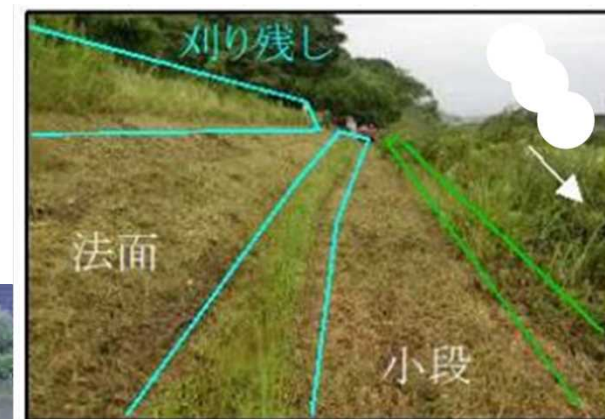
- ① 日 時：令和元年6月 13日（木）
- ② 作業内容：堤防除草作業【維持修繕工事（河川）】
- ③ 事故内容：堤防除草作業で、ハンドガイド式草刈機を転回しようとしたところ、段差で草刈機がバウンドして振り落とされ、草刈り機の下敷きとなり被災した。
- ④ 被害状況：作業員 1名負傷（休業4日以上）

【事故発生状況】

- ハンドガイド式草刈機で小段の除草中に、転回しようとして後進したところ、右後方の低水護岸側の段差で草刈機が傾いた。とっさに操作レバーを動かしたが、その際に式草刈機がバウンドして制御不能になり振り落とされ、キャタピラが左足付け根まで乗り上げて骨盤を被災した。
- 翌日以降の天候を考慮し、当日に作業場所を変更した。作業手順の見直し、人員配置の変更とKYは野帳で再実施した。

【事故発生原因】

- 直前の作業変更で、作業手順書が有効に機能しなく、安全指示が不十分だったため



法面整形中に落石を避けようとして被災（負傷事故：休業4日以上）

事例2 土砂崩壊事故・労働災害

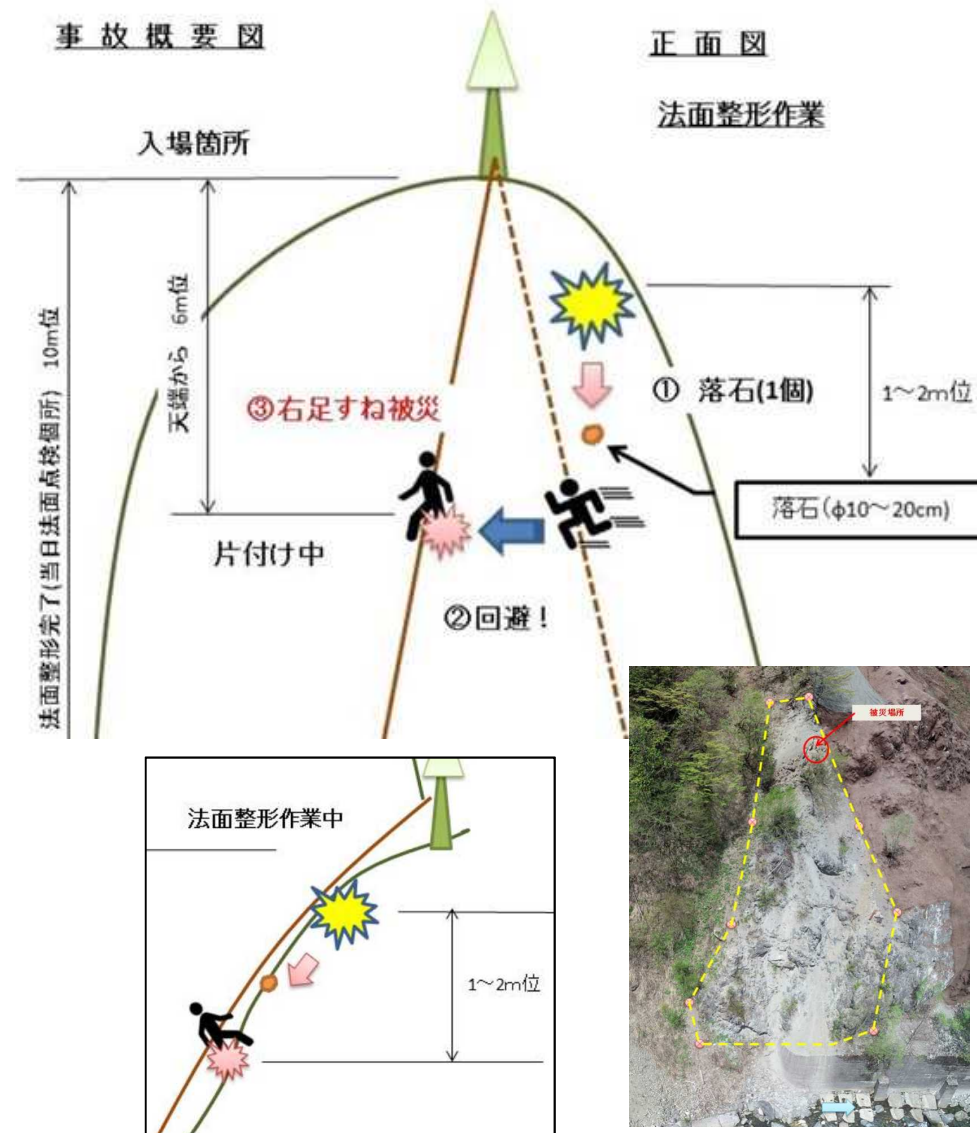
- ① 日 時：令和元年 7月 8日(月)
- ② 作業内容：法面整形(人力)【砂防工事】
- ③ 事故内容：法面整形作業中に岩塊^{がんかい}の落下を避けようとして左移動を行ったところ、右足を地山岩石に打ち付けて被災した。
- ④ 被害状況：作業員 1名負傷(休業4日以上)

【事故発生状況】

- 作業終了間際に、作業員の上部1m~2m付近の岩塊(10cm~20cm)が落下した。作業員はそれを避けようとし、左側に回避した時にバランスを崩し、右足すね部を岩石に打ち付けて被災した。

【事故発生原因】

- 始業前に目視の地山点検と亀裂・浮石に対しては手で確認していたが、見落としがあったため
- 法面整形後の速やかなネット設置などの養生がされていなかったため



吊り足場が落下と一緒に作業員が転落し被災（負傷事故：休業4日以上）

事例3 墜落事故・労働災害

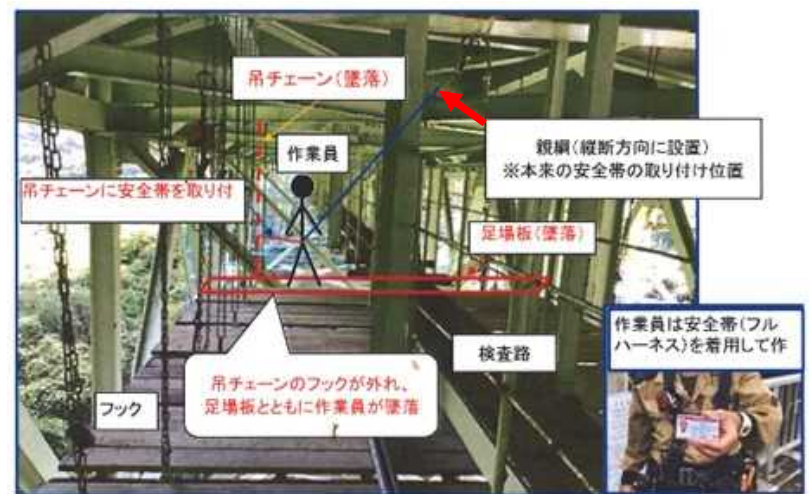
- ① 日 時：令和元年 7月 31日（金）
きょうりょう
- ② 作業内容：橋梁の吊り足場設置作業 【維持修繕工事（道路）】
- ③ 事故内容：橋梁の吊り足場設置で、吊りチェーンが外れて足場材が落下し、作業していた作業員が約13m墜落して被災した。
- ④ 被害状況：作業員 1名負傷（休業4日以上）

【事故発生状況】

- 吊り足場の設置作業中に、足場材の一部である吊りチェーンが、固定するフック（留め具）の固定が不十分のため外れて足場材が落下した。足場材上で作業していた作業員が約13m下へ墜落し、股関節脱臼と一部骨折等の被災をした。
- 作業員は安全帯（フルハーネス）を着用していたが、命綱（ランヤード）を親綱ではなく、落下した吊りチェーンにかけて作業していた。

【事故発生原因】

- フックの固定確認不足のため
- 安全帯を親綱以外にかけていたため



後進中の路面清掃車の下敷きになり死亡（死亡災害）

事例4 建設機械の転倒、下敷、接触、衝突・労働災害

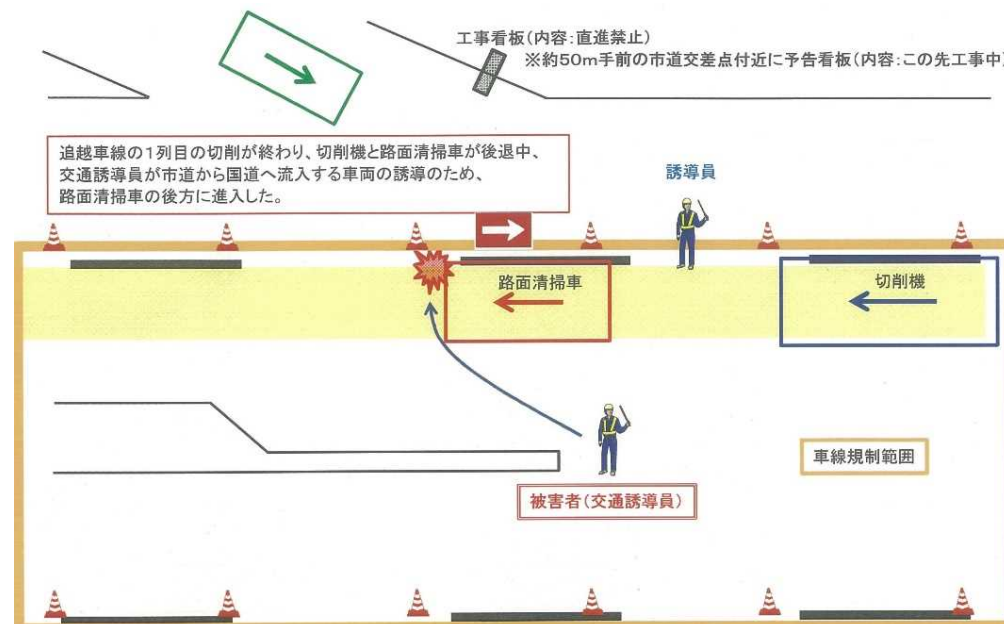
- ① 日 時：令和 2年 3月 21日（土）
- ② 作業内容：交通誘導員が後進中の路面清掃車の下敷きとなり死亡 【維持修繕工事】
- ③ 事故内容：夜間作業にて車線規制をして切削オーバーレイ作業を行っていた際、一般車両を誘導していた交通誘導員に気づかず路面清掃車が後進して下敷きになり死亡した。
- ④ 被害状況：作業員 1名負傷（死亡）

【事故発生状況】

- 維持工事による路面維持作業で片側2車線を切削オーバーレイするものであり、当日、夜間作業にて車線規制をして追越車線の切削オーバーレイ作業を行っていた。
- 路面清掃車が後進中、一般車両を誘導していた交通誘導員に気づかず、交通誘導員が路面清掃車の下敷きとなり死亡した。

【事故発生原因】

- 誘導員の配置等の安全確保に必要な措置が不十分であったため
- 運転手は作業範囲に作業員が立ち入らないと思い込み、油断をして後進したため
- 交通誘導員が周囲の状況確認が疎かになり、路面清掃車の後方に回り込んだため



土砂運搬車両の交通誘導作業員が熱中症により被災（死亡事故）

事例5 熱中症・労働災害

- ① 日 時：令和元年 7月 26日（金）
- ② 作業内容：土砂運搬車両の交通誘導作業 【その他土木一式工事】
- ③ 事故内容：土砂運搬車両の交通誘導員が、熱中症により死亡した。
- ④ 被害状況：交通誘導員 1名負傷（死亡）

【事故発生状況】

- 誘導員は、堤防上で土砂運搬の交通誘導を行っていた。（気温31度）
- 散水車運転手は14:00頃に通行した時、椅子に座っていた誘導員を確認している。
- 散水車の後方を走行していた運転手は誘導員がいないため、トイレに行っただけで通過した。
- 2台後方の運転手がうつ伏せで倒れている誘導員を発見したが、熱中症で死亡した。

【事故発生原因】

- 作業所では、毎朝のKYで自らの健康状態のシート記入と、作業従事中でも休憩のときに体温を測り記入し、平熱より1℃以上高かったら職長へ連絡する管理をしていた。しかし、当事者は当日、KYのチェック欄に記入を行っていたが、体温測定の様式への記入がなかった。

14:00頃通過した散水車運転手はイスに座っている誘導員を見た。



散水車の後方(2~3分後)を走行していた運転手は誘導員を見ていない。



14:10頃、2台後方の運転手がうつ伏せで倒れている誘導員を発見。



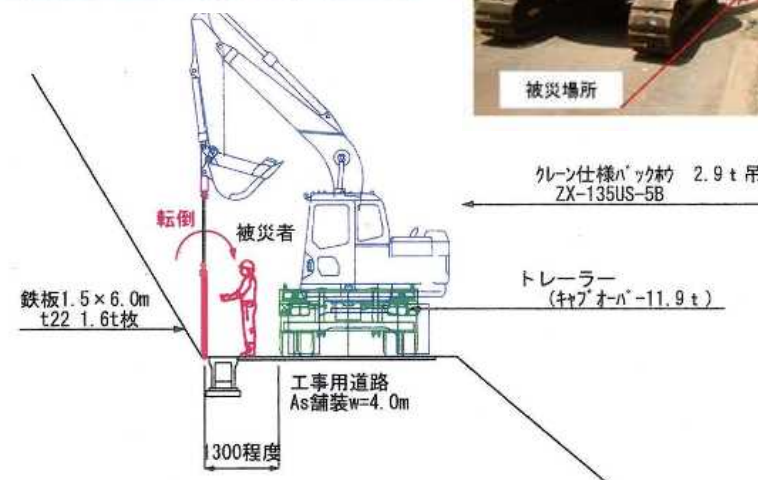
敷鉄板と荷下ろし時に転倒した敷鉄板に挟まれ死亡（死亡災害）

事例6 飛来、落下事故・労働災害

- ① 日 時：令和元年 6月 3日（月）
- ② 作業内容：工事用道路養生用の敷鉄板の荷下ろし作業 【砂防工事】
- ③ 事故内容：敷鉄板の荷下ろし作業で、敷鉄板が地面と設置したときに吊り金具が外れ、敷鉄板とトレーラーの間に入ってしまった作業員が挟まれ死亡した。
- ④ 被害状況：作業員 1名負傷（死亡）

【事故発生状況】

- 工事用道路の幅員が狭いため、クレーン仕様のバックホウでトレーラーから一旦仮設道路左側の法面に寄りかけるように仮置きし、トレーラーが移動してから敷設する手順で作業していた。
- 敷鉄板を地面に降ろし法面に寄りかけようとした際、被災者の合図で少しアームを下げたところ敷鉄板を吊っていた吊り金具が緩んで外れ、敷鉄板が被災者の方向に倒れたため、敷鉄板とトレーラーの間に挟まれ被災した。



【事故発生原因】

- 被災者は鉄板端部で合図していたが、事故の直前に鉄板中央に移動して合図をしたため
- 事故が発生した27枚目の荷卸しまでの間に、吊り具の外れ止め部品が破損していたため



国土交通省
気象庁
Japan Meteorological Agency



熱中症に注意
熱中症ポータルサイト



1 建設業労働災害防止協会 WEB サイト

(<https://www.kensaibou.or.jp/>) へアクセスし、
トップページから「外国人建設就労者映像教材」へ
または右記の QR コードを読み取る。



外国人建設就労者
映像教材

2 視聴したい言語を選択

3 作業カテゴリーを選択、作業内容を選択